

相模貯水池大規模建設改良事業

相模湖（相模貯水池）は、昭和19年に湛水を開始して以来、半世紀以上が経過し、ダムの宿命である堆砂が進んでいます。神奈川県企業庁では、昭和62年度からバックホウしゅんせつ船を導入して、水中掘削により年間10～15万m³のしゅんせつを行ってきました。平成5年度からは、貯水池上流末端部の堆砂による上流域の災害防止（治水対策）と有効貯水容量の回復（利水対策）を目的とし、新たに関係水道事業者等と共同した「相模貯水池大規模建設改良事業」として規模の拡大を行い、しゅんせつ船団を2船団に増強して年間25万m³のしゅんせつを実施することになりました。その後、「洪水時の上流域の安全性が維持できるようになった」ことや、「上流域の土砂発生源での対策等がとられ、相模湖（相模貯水池）へ流入する土砂の量が減少した」ことから平成21年度に計画を見直し、平成22年度からしゅんせつ船団を1船団体制としています。



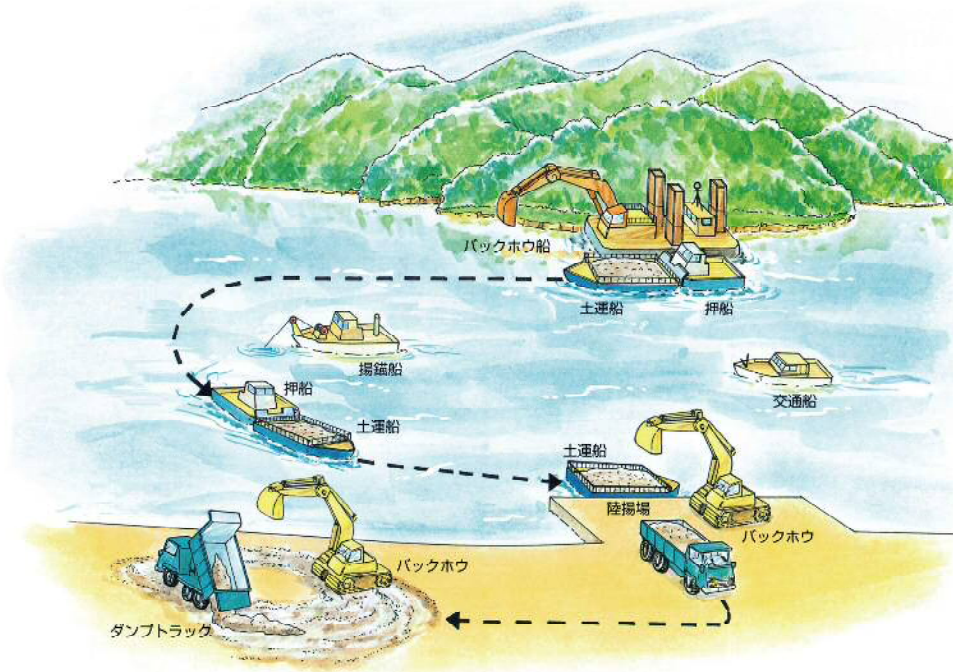
しゅんせつ船団



土運船と押船



陸揚状況



しゅんせつ船団の構成

船種	船名	隻数	能力
バックホウしゅんせつ船	さがみこ	1	バケット容量3.2t
土運船	じんば1～3号	3	積載量90m ³
押船	かげのぶ1～3号	3	
揚錨船	あらしやま	1	吊り上げ能力5.0t
交通船	かいじ	1	

しゅんせつ土砂の利用

しゅんせつした土砂は、仮置場にて脱水を行い、建設骨材や埋立て、河川還元（置き砂）、養浜事業などに利用されています。



河川還元（座架依橋下流）



養浜（茅ヶ崎海岸）

相模ダムの堆砂量の推移

